

国連障害者権利委員会レポート



石川准さんに聞く ～第23会期 委員会&第13、14回 会期前作業部会～

国連の第23会期 障害者権利委員会（The Committee on the Rights of Persons with Disabilities = CRPD）が、8月17日から9月4日にかけて、第14回 会期前作業部会（Pre-Sessional Working Group = PSWG）が9月7日から18日にかけて、オンライン会議として開催された。例年は春と夏の年2回、ジュネーブの国連欧州本部パレ・デ・ナシオンを会場に開催される会議だが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で、3月に予定されていた審査が延期されるなど、通常とは異なるかたちとなった。CRPDの副委員長を務める石川准さん（静岡県立大学教授・東京大学特任教授）に、会議の概要を報告していただくとともに、2020年12月に満了となる4年間の任期をふり返っていただいた。（構成：本誌）

■オンラインでの会期前作業部会

任期の4年目、最後の年がこのようなかたちになるうとは予想もしていませんでしたが、CRPDもCOVID-19の影響を大きく受けました。今年8月から9月にかけての会議についてご報告する前に、3月から4月にかけての委員会の様子についてお話しします。

当初、第23会期の委員会は3月9日から27日の予定でしたが、COVID-19の影響で、ジュネーブに行けないという委員が続